

新しい日本語ローマ字の提案

教育ローマ字 ver. 4.1.1

Part 1

- 日本語のローマ字転写にはヘボン式と教育ローマ字を併用する。必要に応じて、ヘボン式はイタリックで、教育ローマ字は**太字**で書くことにより区別する。教育ローマ字だけが使われるセクションでは、専用のフォントとして Inter を用いる。

目的と原則

課題

- ・ タイピング
- ・ 発音（特に、トーンとイントネーション）
- ・ 構文解析

課題1: タイピング

こんにちは

Nは何個？

konnnnitiha

- 今日では、日本語は主に電子機器上で入力される。
- 学習者はパソコンやスマートフォンでの日本語の入力方法を知らされていない。
- 筆者の知る限り、授業で扱われることは少ない。
- 入力時の綴りはヘボン式その他のメジャーなローマ字方式とは異なる。

課題 2: 発音

こんにちは

発音は？

konnichiwa

ame

“雨” or “飴”?

“*me*”が下降調で発音される場合
に限り、「雨」。

- かなは複雑であり、例外もある。（「おう」をōと発音する場合、「は」をwaと発音する場合など）
- トーンとイントネーションは一切示されない。
- 上級レベルに達するまで（あるいはずっと）語彙アクセントの存在に気づかない学習者もいる。
- 学校、教師、教科書等が教える場合もあるが、万人に利用でき、かつ十分な表記法も理論もない。

課題 3: 構文解析

「今朝目に入って後で返そうと
思って放置してました」

「今週集荷依頼出せるところか
ら住所教えて」

語境界はどこ？

- 日本語の正書法では統語的境界が示されない。（英語でも不完全だが、ずいぶんマシ。）
- 統語的境界—必ずしも語境界ではない—はかな—文字を分解する必要があるものもある。 *kak-u* (“write”) vs. *kak-anai* (“not write”) など。
- 化石化した機能語が一見複雑なイディオム化した表現に含まれている例が多くある。とはいえ、それでは、こんばんは、等。不可分であり、分解すると意味を失う。

解決

konniti'hå

'ka'er·u

kaèru'

'ame

ame'

- タイピング：打つように書く。
- 発音（特にトーンとイントネーション）：ダイアクリティカルマークとその他の特殊文字で示す。
- 構文解析：種々の統語的境界を定義し、スペースとその他の特殊文字で示す。

韻律単位と韻律要素

韻律単位と韻律要素

- 音節
- モーラ
- AP
- IP
- 曲線声調 (R, Lv, F; $nF = R$ or Lv)
- 述語イントネーション (R%, $nR\%$)
- 境界下降

音節

1 2 3 4 5
ga.kkⁱten

1 23 45
h^utō.kō

1 2 3 4
gu.rī.n

1 2 3 4 5
shittō.i

- 最大で CCGVG, ただし、C = 子音, G = グライド, V = 音節核
- V は通常は母音 a, i, u, e, o , および対応する長母音のいずれかだが、マージナルには n も現れる。
- オフグライド（音節末の G）はほとんどの場合 i もしくは n だが、マージナルには e, u も現れる。
- C ($k, g, s, z, t, d, n, h, p, b, m, y, r, w$, など) は長短、および口蓋化・非口蓋化の別がある。
- 口蓋化した k, g, p , または b に a, o , または u が後続すると、唯一のオングライドである y が挿入される。

モーラ

otoko

anata

ochiba

suki datta n da kara

apointomento

samugaritagaritagaritai

- モーラはトーン割り当ての単位。
- CCGVG 構造において、すべての分節が短い場合、最初の C は1モーラ、CGV は1モーラ、最後の G は1モーラである。
- 長い分節（ヘボン式では2文字で書かれることもある）は1モーラをそれぞれの場所に追加する。e.g., *ga.kkiten* (2 音節, 5 モーラ), *hutō.kō* (2 音節, 5 モーラ)
- GVG は最大でも2モーラ。G は長い母音に後続できない。e.g., *gu.rī.n* (3 音節, 4 モーラ), *shittō.i* (2 音節, 5 モーラ)

曲線声調

o.to.ko

a.na.ta

o.chi.ba

s^uki. da.tta n. da. ka.ra

a.po.in.to.men.to

sa.mu.ga.ri.ta.ga.ri.ta.ga.ri.tai

hi.kk'tai

sh'kai.sha

i.sh'ka.ri.hei.ya

- 主要な対立: nF (“non-falling”) vs. F (“falling”).
- 一定の単位内 (AP) において、すべての F はすべての nF に後続する。
- nF 列において、最初の数モーラが R (“rising”) である場合があり、これは Lv (“level”) と対立する。
- R 列が IP の始端を示す。
- R 列は、AP の nF 列の始端から、その範囲内において、第二モーラの音節の音節核まで及ぶ。
- 韻律階層：文 > IP > AP > 音節 > モーラ

- 単位と階層の基本的な考えは児玉 (2008) を踏襲しているが、変更点もある:
- ここで IP と呼んでいる単位は児玉 (2008) では *p-phrase* と呼ばれている。
- 児玉 (2008) ではデフォの発音では IP の最初のモーラだけが R を付与されるが、ここでは音節構造に着目し、上昇調が与えられる範囲の長さを区別する。

述語イントネーション

kinō nani tabeta (R%)

ashita yotei aru (R%)

kinō gomasaaba tabeta (nR%)

*ashita omatsuri iku ($R\%$) tte
kikareta kara ($nR\%$)*

*watashi wa dōsureba ii n
deshōka (nR%)*

*masaka dotakyan tte koto wa
nai yonee (nR%)*

*uketeru dake ja shōgi wa
katenai yo (R%)*

- 典型的には疑問文は述語の R% (“rising” イントネーション) で示される。
- しかし、特定の種類の疑問文では述語は nR% (“non-rising” イントネーション) を付与される。
- 述語が文の途中に位置する場合、イントネーションは述語にとどまる。

境界下降

umakatta

uma katta

uma katta

ashita omatsuri iku watashi

ashita omatsuri iku, watashi

ame wa ashitaniwa yamu darō

ame wa ashitaniwa yamu darōkedo

- AP が連続し、左側の AP の最後のモーラが nF である場合に、右の AP は知覚的に低まった nF で始まることもある（境界下降）。
- 児玉 (2008) の nF]nF における].
- 記号] で示される段階的下降は児玉 (2008) では AP のテンプレートの一要素だが、教育ローマ字では境界音調として再定義されている。
- 境界下降は、一定の条件（後述）が満たされた場合に、特定の統語的境界に挿入される。

R の分布

*Moeru gomi wa Getsuyōbini
dashimasu.*

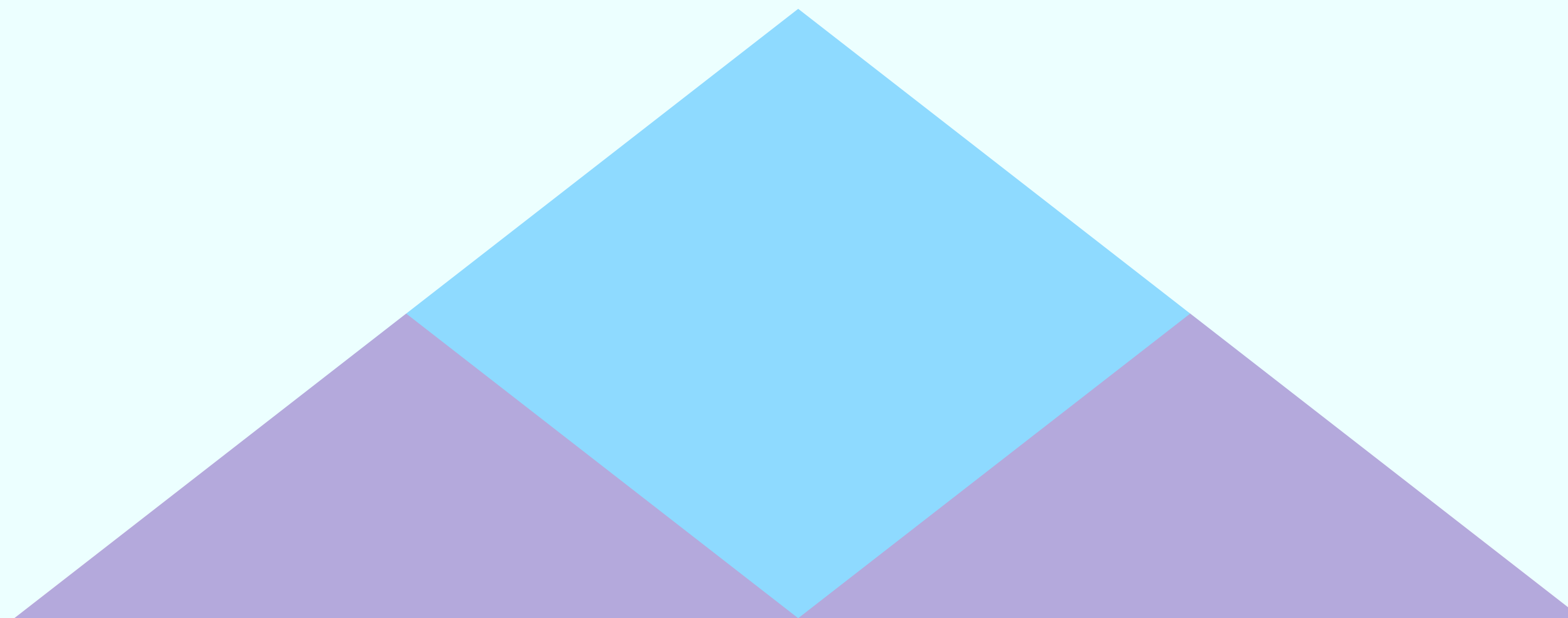
*Moeru gomi wa getsuyōbini
dashimasu.*

*Moeru Gomi wa Getsuyōbini
Dashimasu.*

**moeru Gomi wa getsuyōbini
dashimasu*

**Moeru gomi wa getsuyōbini
Dashimasu*

*((moeru gomi_wa) (getsuyōbini
dashimasu)))*



moeru

gomi wa

getsuyōbini

dashimasu

	+	-	-	-
*	+	-	-	+
	+	-	+	-
	+	-	+	+
	+	+	-	-
*	+	+	-	+
	+	+	+	-
	+	+	+	+

- AP には R 列が伴うことがある。(= AP は IP の冒頭に位置することができる。)
- 三角形の構造において、ある三角形の右側の角に位置する AP が R を持つ場合、同じ三角形の左側の角に位置する AP もまた、R を持たなければならない。
- 構造全体の最も左側の角に位置する AP は R を持たなければならない。(= すべての文は整数個の IP からなる。)

語彙形式

語彙形式

- 上付きアクセント
- 下付きアクセント
- bimoraic rhyme のルール
- 分節音の交代
- AP 境界
- 境界下降

上付きアクセント

ke nara

te nara

kaki nara

yama nara

haru nara

karada nara

onna nara

tamago nara

remon nara

ke' nara	<u>ke</u> nara	0
'te nara	<u>te</u> nara	1
kaki' nara	<u>kaki</u> nara	0
ya'ma nara	<u>yama</u> nara	1
'haru nara	<u>haru</u> nara	2
karada' nara	<u>karada</u> nara	0
onn'na nara	<u>onna</u> nara	1
ta'mago nara	<u>tamago</u> nara	2
'remonn nara	<u>remon</u> nara	3

- 教育ローマ字では、AP 内の nF 列の最後のモーラの直前に特別にアクセント (') (modifier letter vertical line) を挿入する。（第一近似であり、後で修正する。）
- 必ず、AP の最初の語のみがアクセントを持つ。(= アクセントがあれば、それが AP の最初の語である。)
- 用語「アクセント」また（下付きアクセントと区別して）「上付きアクセント」は、綴り字における記号そのものまたは対応する音韻的素性を指して用いられる。

下付きアクセント

ke-kara

te-kara

kaki-kara

yama-kara

haru-kara

karada-kara

onna-kara

tamago-kara

remon-kara

ke-kara

ke nara

te-kara

te nara

kaki-kara

kaki nara

yama-kara

yama nara

haru-kara

haru nara

karada-kara

karada nara

onna-kara

onna nara

tamago-kara

tamago nara

remon-kara

remon nara

ke-kara nara

te-kara nara

kaki-kara nara

yama-kara nara

haru-kara nara

karada-kara nara

onna-kara nara

tamago-kara nara

remon-kara nara

ke-no

te-no

kaki-no

yama-no

haru-no

karada-no

onna-no

tamago-no

remon-no

ke-no

ke nara

te-no

te nara

kaki-no

kaki nara

yama-no

yama nara

haru-no

haru nara

karada-no

karada nara

onna-no

onna nara

tamago-no

tamago nara

remon-no

remon nara

ke nara

ke-no

ke-kara

te nara

te-no

te-kara

kaki nara

kaki-no

kaki-kara

yama nara

yama-no

yama-kara

haru nara

haru-no

haru-kara

karada nara

karada-no

karada-kara

onna nara

onna-no

onna-kara

tamago nara

tamago-no

tamago-kara

remon nara

remon-no

remon-kara

-ka₁ra

-₁no

karada' + -ka_,ra → karada_,-ka'ra

onn'na + -_,no → onn_,na-'no

ke' nara

ke,-'no

ke,-ka'ra

'te nara

'te-,no

'te-ka,ra

kaki' nara

kaki,-'no

kaki,-ka'ra

ya'ma nara

ya,ma-'no

ya'ma-ka,ra

'haru nara

'haru-,no

'haru-ka,ra

karada' nara

karada,-'no

karada'-ka,ra

on'na nara

onn,na-'no

onn'na-ka,ra

ta'mago nara

ta'mago-,no

ta'mago-ka,ra

'remon nara

'remon-,no

'remon-ka,ra

- 奪格の *-kara*, 属格の *-no*, およびその他の項目は、一定の条件下で nF を指定された位置まで拡張する。
- 観察：奪格の *-kara* は、直前の項目がその終端にアクセントを持つとき、その時に限り、nF を *ra* の位置まで拡張する。
- 観察：属格の *-no* は、直前の項目がその最後のモーラの直前にアクセントを持ち、かつそこがその項目の始端でないとき、その時に限り、nF を *no* の位置まで拡張する。
- （他の観察も。）

- 一般化： 特定の項目が直前の項目 W のアクセント A を語彙的に指定された位置 P に「移動」させるための必要十分条件は、 A が W の始端になく、かつ W の終端か P から1モーラ以内にあることである。
(Certain items “move” the immediately preceding item W ’s accent A to the lexically specified position P iff A is not W -initial and is either W -final or within one mora from P .)
- 語彙形式では、 P は特別に記号 (,) (modifier letter low vertical line) で示し、下つきアクセントと呼ぶ。
- A が P に「移動」するとき、 P は変わって'で綴られ、音声的に有効であることを示し、 A の初期位置は変わって,で綴られ、痕跡を示す。（ P と A はペアと見ることもできる；,が上昇するとき、'は下降する。）
- その他の場合には、上付きアクセントおよび下付きアクセントは語彙形式のまま綴られる。

karada' + -ka_,ra → karada_,-ka'ra

onn'na + -_,no → onn_,na-'no

ke' nara

ke,-'no

ke,-ka'ra

'te nara

'te-,no

'te-ka,ra

kaki' nara

kaki,-'no

kaki,-ka'ra

ya'ma nara

ya,ma-'no

ya'ma-ka,ra

'haru nara

'haru-,no

'haru-ka,ra

karada' nara

karada,-'no

karada'-ka,ra

on'na nara

onn,na-'no

onn'na-ka,ra

ta'mago nara

ta'mago-,no

ta'mago-ka,ra

'remon nara

'remon-,no

'remon-ka,ra

2モーラ rhyme の規則

hachiji nara

hachiji-no

hachiji-kara

kinō nara

kinō-no

kinō-kara

kō.ban. na.ra

jō.dan. na.ra

nē.san. na.ra

senshū nara

senshū-no

senshū-kara

ototsui nara

ototsui-no

ototui-kara

mokuyō nara

mokuyō-no

mokuyō-kara

sennsyuu' nara	sennsyuu,-'no	sennsyuu,-ka'ra
ototu'i nara	ototu,i-'no	ototu'i-ka,ra
moku'you nara	moku'you-,no	moku'you-ka,ra

hachiji nara

hachiji-no

hachiji-kara

kinō nara

kinō-no

kinō-kara

ha'tızı nara

kino'u nara

ha'tızı-,no

kino,u-'no

ha'tızı-ka,ra

kino'u-ka,ra

- 音節構造における V または VG の部分（オングライドは無視して良い）を rhyme と呼ぶ。
- rhyme が2モーラの場合、アクセントはその途中に現れることができる。
- 2モーラ rhyme の途中にアクセントがある場合、rhyme の後部のモーラの曲線声調は、直後のモーラと同じになる。
- 最後の2モーラがアクセントを途中に含む 2モーラ rhyme であるような形式は、昨日類に属す。

分節音の交代

taberu

taberare

tabereba

tabenai

tabeyō

tabeta

tabe

taberu

taberare

tabereba

tabenai

tabeyō

tabeta

tabe

asobu

asobare

asobeba

asobanai

asobō

asonda

asonde

asobu

asobare

asobeba

asobandai

asobō

asonda

asobi

taberu

asobu

ru - u

taberare

asobare

rare - are

tabereba

asobeba

reba - eba

tabenai

asobanai

nai - anai

tabeyō

asobō

yō - ō

tabeta

asonda

ta - (?)da

tabe

asobi

o - i

warau

waraware

waraeba

warawandai

waraō

waratta

warai

warau

waraware

waraeba

warawandai

waraō

wara(̲)tt̲a

wara(̲)i

	<i>ru</i>	<i>ra</i>	<i>re</i>	<i>a</i>	<i>yō</i>	<i>t</i>	<i>i</i>
<i>k</i>	<i>ku</i>	<i>ka</i>	<i>ke</i>	<i>ka</i>	<i>kō</i>	<i>it</i>	<i>ki</i>
<i>g</i>	<i>gu</i>	<i>ga</i>	<i>ge</i>	<i>ga</i>	<i>gō</i>	<i>id</i>	<i>gi</i>
<i>s</i>	<i>su</i>	<i>sa</i>	<i>se</i>	<i>sa</i>	<i>sō</i>	<i>shit</i>	<i>shi</i>
<i>t</i>	<i>tsu</i>	<i>ta</i>	<i>te</i>	<i>ta</i>	<i>tō</i>	<i>tt</i>	<i>chi</i>
<i>n</i>	<i>nu</i>	<i>na</i>	<i>ne</i>	<i>na</i>	<i>nō</i>	<i>nd</i>	<i>ni</i>
<i>b</i>	<i>bu</i>	<i>ba</i>	<i>be</i>	<i>ba</i>	<i>bō</i>	<i>nd</i>	<i>bi</i>
<i>m</i>	<i>mu</i>	<i>ma</i>	<i>me</i>	<i>ma</i>	<i>mō</i>	<i>nd</i>	<i>mi</i>
<i>r</i>	<i>ru</i>	<i>ra</i>	<i>re</i>	<i>ra</i>	<i>rō</i>	<i>tt</i>	<i>ri</i>
<i>w</i>	<i>u</i>	<i>wa</i>	<i>e</i>	<i>wa</i>	<i>ō</i>	<i>tt</i>	<i>i</i>
<i>i</i>	<i>iru</i>	<i>ira</i>	<i>ire</i>	<i>i</i>	<i>iyō</i>	<i>it</i>	<i>i</i>
<i>e</i>	<i>eru</i>	<i>era</i>	<i>ere</i>	<i>e</i>	<i>eyō</i>	<i>et</i>	<i>e</i>

- *r* と *y* は子音の後では削除される。
- *g, n, b*, および *m* の後では、*t* は *d* になる。
- 母音は母音の後では削除される。
- 先行する *e* と後続する子音の間では、*k* と *g* は音節核の *i* になる。
- 先行する *a, u, u*, または *o* と後続する子音の間では、*k* と *g* はオフグライドの *i* になる。
- 子音の前では、*m, b*, および *n* はオフグライドの *n* になる。
- *t, r*, および *w* の後では、*t* は長く (*tt*) なる。
- *tt* の前では、*t, r*, および *w* は削除される。
- オフグライドまたは音節核の *i* の前では、*w* は削除される。
- 先行する *s* と後続する *t* の間では、*i* が挿入される...

- $\{r, y\} \rightarrow \emptyset / C_.$
- $t \rightarrow d / \{g, n, b, m\}_.$
- $V \rightarrow \emptyset / V_.$
- $\{k, g\} \rightarrow i \text{ (nucleus)} / e_C.$
- $\{k, g\} \rightarrow i \text{ (offglide)} / \{a, i, u, o\}_C.$
- $\{n, b, m\} \rightarrow n \text{ (offglide)} / _C.$
- $t \rightarrow tt / \{t, r, w\}_.$
- $\{t, r, w\} \rightarrow \emptyset / _tt.$
- $w \rightarrow \emptyset / _i \text{ (nucleus or offglide)}$
- $\emptyset \rightarrow i / s_t.$

AP boundaries

|*moeru* |*gomi wa* |*getsuyōbini* |
dashimasu

|yopparau |tabini |mukashino |dōkyūseini |
puropōzu |suru no wa |mō |yameru|beki da.

|*mainichi* |*nattōkimuchitamago*
o |*taberu*|*bekida*

yamerubeki

**yametabeki*

**yamenaibeki*

taberubeki

**tabetabeki*

**tabenaibeki*

- 語彙形式には AP 境界が含まれることがある。

境界下降

ame wa ashitaniwa yamu darō

ame wa ashitaniwa yamu darōkedo

otokoippiki

tsugi kuru toki wa wasurenaidekudasai ne

ienakiko

- 語彙形式には境界下降が含まれることがある。

Part 1 のまとめ

- 綴り字規則を適用するためには、言語は記述されていなければならない。
- したがって、文法の記述は教育ローマ字の一部門をなす。（教育ローマ字を発展させることは目的の言語の記述を行うこととほぼ等しい。）
- 綴り字規則はタイピング原則を満たすことが要求される；タイプする通りに綴らなければならない。そのため、音韻的な要素のうち、そのままでは表示されないものは、ダイアクリティカルマークその他の特殊文字で示さなければならない。

出典

- 児玉望 (2008). 曲線声調と日本語韻律構造. 『ありあけ』 熊本大学言語学論集 7 1-40.